令和７年度教育研究全体計画

１　研究テーマ

学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童の育成
―自ら考え選択し決定する学び・認め合い支え合える学習集団作りを通して―

２　現状及び主題設定の理由

本校は、昨年度までの３年間は、「『幸崎思考力』を発揮して自律的に学ぶ児童の育成」を目指し集団づくりと学力の定着・向上に努めてきた。集団づくりでは、縦割り班活動や異学年・地域の方との交流を積極的に行ったことで、H-QU の結果から、親和性は高まりつつある。しかし、学力の定着・向上においては、学力調査や単元テストの結果から、国語科や算数科の思考力が十分に身に付いていないことが明らかになった。また、自律的という観点で見ると、授業において教師主導になる部分が多く、主体的に学習に取り組む態度の育成は、まだ十分とは言えない。

そのような現状を踏まえ、課題となる学力の定着・向上に向け、本年度は算数科に焦点をあて、児童が「やってみたい」と思える課題の設定、多様な学習環境の中から自分で考え選択し決定する場の設定を行う中で、学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童を育成していく。また、その学習の基盤となる集団づくりについても、お互いが認め合い支え合える学習集団を育成していく。

そこで、研究テーマを「学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童の育成」とし、自己選択・自己決定のある学びと認め合い支え合える学習集団づくりを通して、自律的に学ぶ児童を育成したい。

３　研究の仮説

算数科において、次の４点に取り組めば、自律的に学ぶ児童を育成することができるであろう。

① 単元の始めに、児童と**単元計画表を作成**
② 子どもたちの自律的な学びを支える**学習環境の設定**
③ 自分の学びを振り返るための **R80 の充実**
④ 単元を通して、**働かせたい見方・考え方を掲示**し、毎時間の終わりに獲得した力の確認（幸崎トレジャーボックスの取組）

４　仮説の検証

検証の視点	検証の指標	達成目標
① 自律的に学ぶことができたか。	自律的な学びについて児童にアンケート（４、７、12 月）	全学年 ４月段階より向上
② 児童は自律的に学ぶことができていたか。	教職員評価表による他者評価	４月段階より向上
③ 児童の学力は向上したか。	単元末テスト	平均得点率 85%
④ 児童が自分の考えを発表できる親和性の高い集団づくりができているか。	集団の質について児童にアンケート（４、７、12 月）	児童の肯定的評価 80%以上

５　研究推進の柱

（１）児童と共に<u>単元計画表を作成</u>

単元の始めに、児童と共に単元計画表を作成する。そうすることで、児童が見通しをもって学習に臨むことができる。また、次の学習内容を知っておくことで、次の時間を意識した振り返りも行うことができる。

（２）子どもたちの自律的な学びを支える<u>学習環境の設定</u>

児童が課題を解決するための手段として、教師が様々な学習環境を準備しておく。そうすることで、児童が自分に合ったものを選ぶ力や、自分で決めたことを最後まであきらめずに挑戦する力を身に付けることができると考える。

（３）自分の学びを振り返るための<u>R80 の取組</u>

学習の振り返りを８０字で書くことを通して、自己の学び方を自分自身で振り返られる子どもを育成する。

本校では、発達段階に応じて取組みを行っていく。低学年では、まずは字数を決めずに書き、慣れてきたら８０字を目指す。接続詞を「だから」「なぜなら」「でも」と限定し、同じ接続詞で継続して書くようにする。高学年では、一文目のまとめを学級全体で行い、二文目を教科の見方・考え方を活用して４０字前後で自分の言葉で書くようにする。本時の学習の前に、前時に書いた児童の振り返りを読んで紹介したり、振り返りの視点に沿って書いている児童のコピーを教室に掲示したりして、意欲を高める工夫を行う。（※掲示は次頁参照）

（４）**働かせたい見方・考え方**を意識させる環境設定（幸崎小トレジャーボックスの取組）

単元を通して働かせたい見方・考え方を単元の始まりから提示し、毎時間の学習の中で、今日はどの見方・考え方を活用したのかを確認する。単元が進むにつれ、児童自らが身に付けた見方・考え方を気付けるようにしていく。

（５）お互いに認め合い支え合える**学習集団づくり**

児童が、学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶためには、親和性の高い学習集団を育成していくことが必要であると考える。そして、対話的な学びを通して自己の変容に気付き、自律的に学び合う集団を目指していきたいと考える。

本校では、集団の質アンケート（９資料）を実施し、児童の変容を見取りながらお互いが認め合い支え合える集団づくりに取り組んでいきたいと考える。

※【ふりかえり　のかきかた】

【わかったこと】
だから〇〇とわかりました。

【くわしく】
たとえば〇〇ということです。

【りゆう】
なぜなら〇〇だからです。

【ほかにも】
また〇〇もわかりました。

【振り返りの書き方】

① **【関係づける】**
だから〇〇とわかりました。

② **【理由づける】**
なぜなら〇〇だからです。

③ **【言い換える】**
つまり〇〇だということです

④ **【疑問】**
しかし（ところが）〇〇が疑問です。

⑤ **【比べる】**
一方（比べて）〇〇だと考えます。

⑥ **【他の考え】**
また〇〇も考えられます。

６　年間スケジュール

期　日	教科・領域等	研　修　内　容	指　導　者
４月　７日（月）		研究の方向性について R80 について	
４月 24 日（木）		幸崎トレジャーボックスについて	
５月　１日（木）	算数科	５月 30 日の教材研究	
５月 15 日（木）		R80 ノート交流	
５月 30 日（金）	算数科	算数科研究授業（全体） ５年　柏原　真由美　教諭	三原市教委指導主事
６月　５日(木)		６月 26 日の教材研究	
６月 19 日（木）		集団づくり研修	
７月７日（月）	算数科	算数科研究授業（全体） ２年　阿武　みほ　教諭 ３年　住本　和己　教諭	三原市教委指導主事
７月 10 日（木）		R80 ノート交流	
８月　５日（火）	算数科	10 月１日の教材研究 11 月 27 日の教材研究	
９月 25 日（木）		R80 ノート交流	
10 月　１日（水）	算数科	自主公開研（全体） ４年　齋藤　美穂	泰山　裕　先生 三原市教委指導主事
10 月 17 日（金）	四・幸ブロック	須波小ブロック公開研	全員参加 三原市教委指導主事
11 月 27 日（木）	算数科	算数科研究授業（全体） １年　古本　美穂　教諭 ６年　杉本　美雪　教諭	三原市教委指導主事
12 月　４日（木）		R80 ノート交流	
12 月 11 日（木）		集団づくり研修	
12 月 26 日（金）	特別支援教育	１月 29 日の教材研究	
１月 29 日（木）	算数科 特別支援教育	研究授業（全体） わかくさ２組　平田理紗教諭 わかくさ１組　今明剛志教諭	三原市教委指導主事
２月　５日（木）		R80 ノート交流	
２月 19 日（木）		集団づくり研修	
３月 12 日（木）		まとめ・次年度に向けて	

８　確認事項

校内研修は、原則として木曜日に開催　<u>大切なことは、情報の周知と共有</u>

・小中一貫教育推進委員会　４月 16 日（水）８月６日（水）２月 18 日（水）

・R80 交流　学期に２回

・集団づくり研修　学期に１回（学習集団研修の交流）

・この他にも、市・県主催や他校の研究会に参加した場合は、内容を報告する。

９　資料

＜集団の質についてのアンケート＞

・調査時期…年度始め・１学期末・２学期末・年度終わりの計４回

・調査項目…２観点（A 授業場面　Ｂ人との関係）

・調査対象…各クラス全児童

・回答…４段階（１とてもそう思う　２少しそう思う　３あまりそう思わない　４全然そう思わない）

A　授業場面

	設　問	回　答
A1	わたしの学級には、わけをつけて発表できている人が多いと思う。	１・２・３・４
A2	わたしの学級では、みんながいろいろな意見を発表し合いながら学習を進めている。	１・２・３・４
A3	わたしは、友達の意見を取り入れたり、自分の意見を見直したりしながら、答えを考えることができている。	１・２・３・４
A4	わたしの学級では、みんなで出し合った意見を、自分たちで整理したりまとめたりできる。	１・２・３・４
A5	わたしは、勉強が楽しいと思う。	１・２・３・４

B　人との関係

	設　問	回　答
B1	わたしは、学級の友達ひとりひとりのよいところを知っている。	１・２・３・４
B2	わたしの学級には、友達に「だいじょうぶ」「がんばって」「よかったね」と声をかけている人が多いと思う。	１・２・３・４
B3	わたしの学級の友達は、わたしのよいところを知っていると思う。	１・２・３・４
B4	わたしは、学級で友達といるのが楽しい。	１・２・３・４
B5	わたしの学級には、発表しやすい雰囲気がある。	１・２・３・４